

## 安曇野観光に対する市場アンケート調査と都農文化交流の試み

松本大学松商短期大学部専任講師 峯 岸 芳 夫

はじめに

- 〔1〕 安曇野観光に対する市場アンケート調査の概要  
(市場調査項目及び集計結果・考察については別掲)
- 〔2〕 安曇野紹介イベントの概要
- 〔3〕 市場アンケート調査及び交流イベント開催までの経過
- 〔4〕 安曇野観光市場アンケート市場調査・安曇野紹介イベント実施
- 〔5〕 安曇野観光の今後の展望と課題
- 〔6〕 安曇野観光に対する市場アンケート調査等の研究の助成について

はじめに

安曇野市の基幹産業である農業と観光は、新たな展開を企てねば、先詰まり状況にある。農業は後継者不足問題をかかえ、数年後には農業者の激減が予想される。観光においては、安曇野の有名観光地への旅行者の大幅減少が報告されている。この状況を打ち破るために、農業と観光を結ぶ新たな事業の可能性をさぐる必要性を強く感じている。

そこで、その可能性をさぐるために、都市住民への「安曇野観光に対する市場アンケート調査」と「安曇野紹介イベント」をセットに、(1)市場調査 (2)安曇野紹介 (3)安曇野市民参加者の協働体験 (4)都市住民との交流 を目的とする行動の計画立案をした。

この市場調査を都市住民に実施できれば、今後の安曇野観光にとって有益なものとなるであろう。しかし、何の手がかりもなしでは調査に膨大な労力を必要し、十分な資料をえることの困難が予想された。そこで、安曇野紹介イベントと組み合わせることによって、その関係者にアンケート調査の労力も提供してもらうことにした。これは、安曇野紹介イベントの下での調査となり、安曇野に対する無垢な都市住民との接触という点では欠点をもつが、いたしかたない。どんなアンケート調査にも、なんらかの欠点は持ち合わせているものである。そのことを前提にして、調査結果を分析・検討し対処することで、一定の成果を期待できると判断した。

この試みにより、「〔5〕 安曇野観光の今後の展望と課題」にあるような新たな展望と課題をえることができた。協力者の方々への謝意を表したい。

### 〔1〕安曇野観光に対する市場アンケート調査の概要

- (1) 目的：安曇野観光に対する都市住民の意識調査を行い、今後の安曇野の観光受け入れ及び地域づくりに活用する。
- (2) 実施場所・日時：東京都武蔵野市（旧豊科町と姉妹都市提携にあった）  
1回目1月24日
  - ・アンテナショップ「麦わら帽子」（全国7地域の物産販売をてがける吉祥寺中道通りの繁華街にある店）での安曇野物産販売とともに調査を行った。
  - ・「けやきコミュニティ・センター」にアンケート調査依頼（回収予定日2月19日）2回目2月19日  
「けやきコミュニティ・センター」（武蔵野市民のコミュニティスペース）にて、安曇野イベントとともに調査及び依頼中の調査の回収。
- (3) 回答数：163名
- (4) 実施者：都農文化交流イベント『安曇野からこんにちは』に参加した安曇野市及び周辺市民、延べ40人
- (5) 市場調査項目作成・集計中心者  
増田望三郎（安曇野市三郷小倉在住）、丸山夏輝（松本大学松商短期大学部1年、住吉広行研究室所属）
- (6) 以下に市場調査項目と集計結果の概略を掲載するが、詳しいものは、(5)の二氏の集計結果・考察にある。

質問1-1	『安曇野』を知っていますか？	
	知っている	152
	知らない	11
質問1-2	「知っている」と答えた人はどんなイメージがありますか？	略
質問2-1	安曇野を観光で訪れたことがありますか？	
	1回	4
	2回	0
	3回	4
	4回以上	7
	訪れたことはない	129
質問3	安曇野・松本エリアの観光地で、どこを訪れたいですか？またどのような体験をしてみたいですか？	複数回答
	場所 上高地	50
	わさび田	30
	道祖神巡り	29
	りんごなどの果樹畑	25
	美ヶ原高原	23
	ちひろ美術館	21
	田園風景	14
	松本城	14
	碌山美術館	11
	北アルプス	9
	アルプス国営公園	8
	白鳥湖（冬季）	7
	体験 温泉に浸かってのんびり過ごす	104
	信州蕎麦など地元名産の食べ歩き	60
	美術館巡り	39
	北アルプスの登山	36
	蕎麦打ち体験	36
	農業体験（りんご収穫や田植えや稲刈り）	31
	地元の人たちとの交流	9
	サイクリング	8
	ラフティングなどでの川下り	7
	絵画やスケッチ	6
	山菜採り	6
	何もしない	4
	ドライブ	3

質問4	あなたが安曇野に観光で滞在する場合、何日間程度滞在したいですか？	
	日帰り	1
	1泊2日	36
	2泊3日	77
	3泊4日	37
	1週間以上	17
	1ヶ月以上	2
質問5	あなたは田舎暮らし体験や農業体験などのグリーンツーリズム（農村地域での自然・文化・人々との交流を行う滞在型観光）をしてみたいですか？（選択式）	
	してみたい	77
	したくない	30
	どちらとも言えない	52
質問6-1	リンゴの木のオーナー制度について	
回答6-1	知っていた	73
	知らなかった	85
回答6-2	なりたい	49
	なりたくない	48
	どちらとも言えない	65
質問7	安曇野など農山村地域に旅行者として出かける場合、困ることはありますか？（選択式、複数回答OK）	略
質問8	あなたが安曇野に滞在する時、どんな宿泊施設を希望しますか。（複数回答可）	略
質問9	あなたが宿泊施設に求めるものは何ですか？（複数回答可）	略
質問10	年代性別についてお答えください。20代以下、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上 男性。女性	略

## 〔2〕安曇野紹介イベントの概要

- (1) 目的：都農文化交流イベント「安曇野からこんにちは」により都農の共生の手がかりをさぐる。
- (2) 実施場所・日時 2006年2月19日武蔵野市「けやきコミュニティ・センター」  
(下見・事前打ち合わせ：1月24日)
- (3) イベント参加者約70人
- (4) 催し内容：
  - i) 碌山美術館・田淵行男記念館紹介ビデオ
  - ii) お話「農業青年の夢」・・・安曇野市就農3年目の青年  
お話「民宿経営の夢」・・・東京から安曇野に移住してきた青年
  - iii) 有機農業・合鴨農法紹介・・・合鴨農法研究家
  - iv) 安曇野物産紹介
    - ・地酒「しげやなぎ」「大雪溪」「鴨ん福」・・・利き酒
    - ・虹鱒燻製、そば粉、トマトピューレ、林檎サンふじなど
    - ・韓国蕎麦料理「ムック」試食
    - ・石臼、種玉蜀黍、南瓜など展示
  - v) 小写真展 「安曇野の道祖神」道祖神研究家、「安曇野の四季」アマチュア写真家
  - vi) コンサート
    - ・安曇野の田舎ソンググループ MEN'S 2 によるコンサート  
(奈良井宿大宝寺マリヤ観音を歌った「山人」、「信濃の人はお茶が好き」「わさびの花」他)
    - ・安曇野に移り住んで5年目の農業青年の自作曲「りんご畑のテーマ」
- (5) 参加者の感想など、別掲。

## 〔3〕市場アンケート調査及び交流イベント開催までの経過

- (1) 2005年11月下旬、安曇野市三郷の有志でつくる住みよい地域づくりを考える黒沢自由塾の世話人会に、① 市場調査 ② 安曇野紹介 ③ 参加者の協働体験 ④ 都市住民との交流という目的のもとで、松本大学の基盤研究C「安曇野における滞在型グリーンツーリズムと地域活性化」に関わり安曇野観光に対する市場アンケート調査と安曇野紹介イベントを試みる企画概要を示し、賛同をえた。その実現の道が具体化したら、これへ協力する約束をえた。
- (2) 上記企画の具体化のため計画・交渉のプログラムを作成。(安曇野紹介イベントにかかわり市場調査作業も担ってくれる人の勧誘も同時進行でおこなう。また、武蔵野市のイベントに参加する都市住民の勧誘も知人・友人に口コミでおこなうように協力者に頼む)
- (3) 12月中旬 武蔵野市と旧豊科町の姉妹都市提携の実績をたよりに、関係者に目的の実現のための橋渡しを依頼するが、安曇野市に町村合併したこともあり、安曇野市地域支援課を通してことをすすめる方がいいとアドバイスをうける。
- (4) 12月22日 安曇野市役所の総務課及び豊科総合支所地域支援課を訪問。武蔵野市内で市場調査、安曇野紹介イベント、物産販売の可能な場所の確保を依頼。
- (5) 1月4日 豊科総合支所地域支援課より、市場調査、紹介イベント、物産販売の可能な場所を見つけることは困難との返事。例年、4月初旬に行なわれている武蔵野市の「さくらまつり」では、交流地の物産紹介・販売は可能だが、コンサートなどの催しは難しい。公でやることには制限が多く、独自の交流を試みることの困難を感じる。ただし、物産販売なら、吉祥寺中道通りのアンテナ・ショップ「麦わら帽子」が可能とのこと。直接、「麦わら帽子」の店長と連絡をとりすすめていいとのこと。(市場調査はここのお客にできると判断する。ただし、十分な数の市場調査の回答を得られるかは疑問)

- (6) 1月4日 市場調査、安曇野紹介イベント、物産販売の可能な場所の搜索を独自に開始。インターネット上で、「けやきコミュニティ・センター」をみつける。

けやきコミュニティ・センターの情報収集を開始。施設・設備の充実（広いスペースでないが、美術館風の多目的に使用できるもの。参照 <http://www.komisen.org/keyaki-c/index.html>）、管理運営が関係市民中心になっていることから、市場調査、安曇野紹介イベント、物産紹介（販売は不可）が可能であることが分る。施設借用は外部者には制限があるが、けやきコミュニティ・センターの催しとして扱えば、無料で施設借用できるとのこと。運営委員会で検討を約束。（この点については、けやきコミュニティ・センターとの交渉の開始を安曇野市総務課に連絡したことにより、安曇野市→武蔵野市→けやきコミュニティ・センターへと「協力を善処して欲しい」と連絡がされたようである）

- (7) 1月12日 けやきコミュニティ・センターからの受け入れ承諾を得て、イベント実行企画案を作成。＜後掲＞（当初、1月22日を予定したが、けやきコミ・センの都合により2月19日に変更）

- (8) 1月15日 イベント案内チラシ作成＜後掲＞

- (9) 1月24日 アンテナショップ「麦わら帽子」にて、安曇野物産販売及び安曇野観光市場アンケート調査実施。けやきコミュニティ・センターの下見と事前打ち合わせ。参加者14名。

・安曇野観光に対する市場アンケート調査：

回答数15名。寒風の中、多項目の長いアンケート調査の回答を得るむずかしさを実感した。調査に応じる人を捕まえるのに苦労した。調査内容を短くするなど改善の必要あり。

・安曇野物産販売

販売物は林檎サンふじ、トマトピューレ、リンゴジュース、虹鱒の燻製、燻製チーズ、地酒「鴨ん福」。吉祥寺本町の中道通りは人通りが多く、販売成果はあがった。アンテナショップに固定客がおり、一定の信用を得ているのが強みであった。近隣には「高知屋」という高知県の物産販売を手掛ける店があり、販わっていた。

・けやきコミ・セン下見・事前打ち合わせ、アンケート調査依頼

コンサートホールは30～40名収容。廊下に写真などの展示スペースがある。中庭には、塑像があり、1・2階の各部屋から見られるようにガラス張りの設計がされており瀟洒なコミュニティ・センターであった。このセンターは住民の自主運営となっており、ボランティアスタッフは60名いるそうである。音響についても良好。ビデオ上映装置もある。近隣の成蹊大学との連携もあり、充実した運営をおこなっている。センターの発足はクリーンセンター（ゴミ処理施設）問題の住民運動がきっかけになっている。（この問題は市役所の傍にクリーンセンターをつくることで一定の解決をえたようである）

センターの設計も市民サイドでなされ、運営も市民主体という特徴がある。地域イベントやコンサート、ミニ美術展、定例碁会、成蹊大学の先生による地域づくり講演など充実した活動をしている。安曇野観光市場アンケート調査や安曇野紹介イベントに積極的に協力してくれる姿勢を示してくれた。イベントでは地酒の利き酒の実現に期待をかけられた。

・安曇野の協働のきっかけ

行き帰りのバス内では、参加者が互いに知り合うことができ、19日の成功に向けての交流ができた。今後の安曇野市の観光ネットワークづくりのステップになると思われる。

- (10) けやきコミュニティ・センターの調査への協力

松本大学でのシンポジウム「安曇野の観光を考える」の資料にするため、調査回答の途中回収に協力してくれ、約100人ぶんの回答が郵送されてきた。

- (11) 安曇野紹介イベントを成功させるために協力者を募る

単なる市場調査ではなく、これを通じて安曇野の文化を伝える意味は大きい。その実現には、安曇野を住みよい地域にしたいという住民の存在が前提となる。交流のホスピタリティは、自

分達の郷土を愛する心に依拠する。このイベントを通じ、安曇野の文化を都会人に伝えるだけでなく、安曇野からの参加者が、郷土のよさを見直し、素晴らしい地域社会をつくろうというさらなる思いをもつことを期待した。音楽・酒・蕎麦料理・写真・ビデオ・農業青年の話などにより、具体的に、直接的に安曇野紹介をしようと試みた。

多くの分野に、このイベントのスタッフを募ったのは、新市の活性化のために欠くことのできない安曇野市民の協働を期待したからである。

#### i) 安曇野の地酒提供

- ・20年前から武蔵野市との交流が続けている豊科重柳地区を訪ねた。今までの交流の成果を教えてもらい、今回の交流の参考にするためであった。今回の交流に参加はいただけなかったが、地酒「しげやなぎ」の提供をしていただいた。
- ・池田町の大雪溪酒造に地酒提供をお願いした。こころよく提供していただいた。冬期限定の銘酒であった。酒米をつくる農家の紹介と安曇野の水のよさを紹介する自作パンフを添えていただいた。
- ・自然有機農法である合鴨農法で作った酒米による地酒「鴨ん福」の提供を合鴨会からしていただいた。

#### ii) 音楽文化（コンサート）について

- ・安曇野を知らないが、早春賦という歌は知っているという武蔵野市民に出会った。歌は心に訴える力がある。MEN'S 2（元わさびーず）の田舎ソングには、「わさびの花は 白い十字架」、「石臼うまくひけるから」、「なずなのおひたし」、「春が来たかや チャンメロ出ぬか」など、都会人の心をときめかすキーワードがふんだんにはいつている。貧しさに寄り添いながら生きる山人を歌った「赤子を抱いた仏様 教えてくだされや わしらは一生苦勞してこのまま死ぬのかや・・・」は、田舎からの都会人への新鮮なメッセージであろう。MEN'S 2のボランティア参加の承諾を得た。
- ・他県から安曇野に就農して5年目の農業青年の自作の歌「りんご畑のテーマ」の「ここは僕のふるさと〜♪」のリフレインに都会人の心は動くはず。彼の参加承諾を得た。

#### iii) 写真展について

安曇野の道祖神、常念岳の四季は、視覚的な安曇野の象徴表現。安曇野に育ち、安曇野に老いる者が安曇野に残しておきたいものを道祖神と常念岳の写真を通して訴えてもらうことで、二人の写真家の参加承諾を得た。

#### iv) 安曇野紹介ビデオについて

碌山美術館ビデオ・田淵行男記念館ビデオを両館の役員の方から提供承諾を得た。

#### v) 有機農法の紹介について

無農薬・有機肥料の合鴨農法の紹介をビデオでしていただき、食の安全と農業について語っていただく協力を合鴨会にお願いし、承諾を得た。

#### vi) 韓国蕎麦料理「ムック」の紹介と試食について

韓国料理研究家に安曇野でとれた蕎麦粉をもとに「ムック」をつくり、蕎麦料理の美味さを試食提供することをお願いし、承諾を得た。

#### vii) 安曇野に生きる青年の夢の語りについて

- ・新規就農三年目の青年に「農業青年の夢」を語っていただく承諾を得た。
- ・安曇野での民宿経営の実現のための準備をしている青年の夢を語っていただく承諾を得た。

#### viii) 自分の作った林檎サンふじ、トマトピューレ、虹鱒燻製などを、自ら紹介していただくイベント参加者を募り応じてもらった。

(12) 2月8日 依頼したアンケートの回答の途中回収と最終事前打ち合わせに行く。

(13) 2月18日 松本大学での安曇野観光に関するシンポジウムにて、このイベントを紹介し、事後報告を約束する。

2006・1・12

## 「武蔵野市への市場調査兼安曇野紹介と物産販売」の企画案

峯 岸 芳 夫

## ・第1回 期日 2006年1月24日(火)

場所 アンテナショップ麦わら帽子

(〒180-0004武蔵野市吉祥寺本町2-33-1 TEL0422-29-0331 fax0422-29-0332)

集合 松本大学 8:00 (マイクロバス、参加費用の自己負担なし)

往き 8:15→現地到着11:30 (各自、早昼食をとる)

販売・市場調査 12:00~17:30

帰り 18:00→(途中休憩して夕食)→松本大学到着21:00 解散

現地行動 市場調査、林檎販売、けやきコミ・セン下見と市場調査アンケート依頼

## ・第2回 期日 2006年2月19日(日)

場所 けやきコミュニティ・センター(寺島代表、富事務局長)

(〒180-0001武蔵野市吉祥寺北町5-6-19 TEL0422-54-8719 keyaki-c@parkcity.ne.jp)

集合から解散までの日程は1月24日(火)とほぼ同じ。

(大型バス使用、参加費用の自己負担なし)

現地行動

- ・ホール 田淵行男記念館よりのビデオ & MEN'S コンサート(30人収容)

13:00~14:00 田淵行男記念館・礫山館ビデオ①

14:00~15:00 MEN'S コンサート①

(奈良井宿大宝寺マリヤ観音を歌った「山人」、「信濃の人はお茶が好き」他)、  
就農5年目有機減農薬林檎農家 松村暁生君の「りんご畑のテーマ」)

15:00~16:00 田淵行男記念館・礫山館ビデオ②

16:00~17:00 MEN'S コンサート②

- ・廊下スペース：写真展 (道祖神研究家の写真、安曇野風景アマチュア写真家)
- ・市場調査 松本大学学生丸山夏輝君(住吉ゼミ)と自由塾の増田望三郎君による。  
グリーンツーリズムとしての林檎オーナー、援農体験などを含む安曇野紹介を兼ねながら、武蔵野市民の安曇野への要望を調査。ターゲットは女性、団塊世代で「安曇野に何を望むか・・・アンケート」の実施。
- ・安曇野物産紹介、  
林檎、虹鱒の燻製、蕎麦粉、地酒のきき酒などの紹介  
(蕎麦の健康食品の価値や調理法も紹介。蕎麦の韓国料理「ムック」)
- ・誘客をはかる宣伝網(口コミで、広く東京近郊の友人・知人に連絡)  
・・・早急に宣伝パンフづくりくけやきコミ・センにもお願いします>)
- ・マスコミの支援(事前取材、同行取材・・・松本タウン情報記者)
- ・ビデオ撮影・・・(協力者あり)

以上の企画に参加者は、基本的にボランティアで了承されています。また、今後加わる方も同様をお願いします。これに関わる経費は、市場調査関係以外は自己負担にてお願いします。

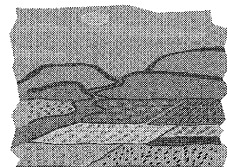
宣伝チラシ

# 安曇野から「こんにちは」

安曇野市は明科・豊科・穂高・堀金・三郷の5町村が合併してできた市です。  
武蔵野市と安曇野市は友好交流提携をしています。

2006年

## 2/19(日) 13:00~17:00



### 吉祥寺北町 「けやきコミュニティ・センター」にて 松本大学の安曇野アンケート調査にご協力を

(都会の私は、安曇野をこう見る・安曇野にこう要望する)

### (1) 礪山美術館・田淵行男記念館紹介ビデオ上映 & 田舎ソング：MEN'S コンサート 入場無料

13:00~13:50 開会行事・礪山館美術館ビデオ・安曇野紹介など  
・利き酒タイム

14:00~14:50 MEN'S コンサート(中村雅彦、耳塚秀三郎)①

(奈良井宿大宝寺マリヤ観音を歌った「山人」、「信濃の人はお茶が好き」他、  
安曇野で農業を始めて5年目の松村暁生君の自作曲「りんご畑のテーマ」)

15:00~15:50 田淵行男記念館ビデオ・安曇野紹介・交流など

16:00~17:00 MEN'S コンサート②

### (2) 写真展 道祖神研究家石田益雄氏、安曇野風景写真平林良治氏

### (3) 安曇野物産・紹介 林檎、地酒、虹鱒燻製 他 韓国蕎麦料理「ムック」試食・紹介

けやきコミ・センは公園の奥にある瀟洒な建物です。JR 吉祥寺駅より吉祥寺北西循環100円  
ムーバスにて「けやきコミ・セン」下車。HP：<http://www.komisen.org/keyaki-c/page.htm>  
松本大学からのバス利用の方は、8:00集合です。

このイベントは松本大学と安曇野市民有志によるものです。 お問合せ：090-5808-0768 (峯岸芳夫)



#### 〔４〕安曇野観光市場アンケート市場調査・安曇野紹介イベント実施

2月19日 安曇野観光市場アンケート市場調査・安曇野紹介イベント予定通り無事終了。

(1) 安曇野よりの参加者約30名、都会からの参加者約40名

(2) 安曇野とその周辺よりの参加者の詳細

1. 石田益雄（道祖神研究家 道祖神写真提供 豊科成相）
2. 上條裕康（林檎農家、J Aあづみ青年部 三郷北小倉）
3. 大久保元隆（中国整体師 元松本日中友好協会所属 松本島内）
4. 木内義勝（松本大学松商短期大学 安曇野市長選公開討論会モデレーター 松本鎌田）
5. 吉良健一郎（「渡来人囲碁まつり」企画参加者、ケーナー奏者 建築業 松本沢村）
6. 草間 有（不動産こまくさ地所 自称安曇野のマイナー探検家 三郷温）
7. 小松和子（MEN'S2の大ファン 松本島立）
8. 斉藤彰久（斉藤農園 アグリス 蕎麦処 堀金烏川）
9. 柴野道夫（安曇野物産紹介・燻製チーズ・虹鱒燻製など、農民画家 三郷温）
10. 杉本博志（松本浅間「渡来人まつり」事務局、松本 行きだけ）
11. 高橋恵津子（安曇野市長選公開討論会仕掛け人・リサーチ・フォーラム、市場調査 明科）
12. 田宮辰夫（奈良より移住 黒沢自由塾代表 三郷東小倉）
13. 田宮良子（家庭菜園、ジャム作り、奈良県より移住 三郷東小倉）
14. 張琴順（「やんちゃ坊」オーナーシェフ、韓国料理研究家、蕎麦料理「ムック」紹介、松本美須々、行きだけ）
15. 塚田良子（スナック「路(ろーど)」経営 札幌リビック・スピードスケート競技出場 三郷一日市場）
16. 津村孝夫（農業、エゴマなど野菜 合鴨農法米 四国出身 三郷北小倉 消防団員）
17. 中田信一郎（山共建設勤務、消防団員、三郷北小倉）
18. 中村享嗣（林檎農家、三郷日本語教室事務局 三郷北小倉）
19. 中村雅彦（MEN'S2 元わびーず 松本沢村）
20. 西条 正（合鴨会会長 穂高北穂高）
21. 西村紘文（萬緑きさらぎ俳句会事務局長、耳塚さんと高校同級生、書道師範 豊科成相）
22. 平林良治（安曇野風景写真提供 中沢写真学校 日本バドミントン協会理事 豊科新田）
23. 藤沢雄一郎（合鴨農法実践家 合鴨会事務局長 地酒「鴨ん福」 穂高）
24. 古幡開太郎（礪山美術館・田淵行男記念館役員、創造学園副校長、穂高牧）
25. 増田望三郎（民宿開業を目指す、九州出身、市場調査中心者、三郷東小倉）
26. 松村暁生（林檎・果樹農家、三重県出身、自作曲「りんご畑のテーマ」、三郷東小倉）
27. 丸山夏輝（松本大学松商短期大学部住吉ゼミ学生、市場調査中心者）
28. 丸山吉重（松本商工会議所 三郷明盛一日市場）
29. 三沢秀夫（MEN'S2の大ファン 豊科高家）
30. 峯岸芳夫（松本大学松商短期大学専任講師 三郷明盛見岳町）
31. 耳塚秀三郎（MEN'S2 元わびーず 豊科成相）
32. 八代啓子（タウン情報、同行取材、三郷明盛見岳町）
33. 上嶋隆一（東京 NHK 勤務、今回は個人的にビデオ撮影、豊科高家出身 現地参加）

(3) 参加者からの感想・メッセージ・礼状など

＜安曇野からの参加者から＞

- ・この事業は面白い。本来行政がお祭り気分でおこなう内容だが、それよりはるかに実りある事業である。今回は武蔵野市を対象にしたが、他の都市（穂高、堀金、三郷、明科の姉妹都市）を対象にして違った企画をたててもよいように思う。参加して考えることと人に出会うことの両面がこの上なく楽しい。

・① 市場調査

乏しい条件の中、自然を通して豊かさを得ようとした企画者側の配慮を感じた。

② 安曇野紹介イベント

いろいろな展示品や試飲・飲食コーナーはけっこう受けていたと思う。ただ料金が安ければさらにいいと言っていた。一番は県外から来た若者の体験談、とてもよかった。自然に挑んで得た心からの喜びを表わし、確かな夢を語っていた。武蔵野の方々はすなおに激励してくれたと思う。私も生きる事の原点を感じる事ができた。

③ けやきコミ・センとの交流

けやきの人々は自然や心のつながりを通して子どもの頃に感じた心の豊かさを一生懸命伝えようとしている。なにか安曇野に欠けている様を感じた。

・老後をのんびり過ごしたいと安曇野に住むようになって7年。お節介な性格もありあれこれ住民運動にボランティアにと多忙になってしまいましたが、それも新しい生き甲斐をとまっています。安曇野から世界へ手を結び合えるような目を持ちたいと思います。けやきコミ・センが自主運営されていることはすばらしい。おおいに参考にしてゆきたい。

・心の片隅に今日の閉塞感を打破したいという想いを抱いた人達の真摯な活動であったと言っても過言ではない。それは今後の我々の生きる方向性（＝自然回帰ほか）を示唆する先駆者としての役割であったかも知れない。ともすれば見失いがちな人類にとって大事なメンタルなエリアを忘れてはならない・・・と思うのです。

・「けやきコミ・センとの交流」というよりバスでの自己紹介により知らなかった事がわかったという事と、皆さんの人柄により私の夢（ひきこもりやニートの社会参加の一歩として、ひきこもり・ニートの更生ための農場づくり）ももしかしたらかなうかも知れないと思いました。一人ひとりさらに深めて行けたらいいなと思います。若者3人の叫びは素晴らしかった。M EN'S 2 の歌も役にたてたと思う。ただ、チーズ、酒等もっと安い価格だったら良かった。これで終らず次につながるような協力をしてゆきたい。

・幅広い体験を仕事されている皆さんが安曇野で一致し、協働する試み、松本大学の一つの柱にしたらいかがでしょうか。（もっと学生も参加して・・・）けやきコミ・センのスタッフの皆さん、多分ボランティアでセンター運営していると思いますが、このような地域のセンター（公民館、集会所）の運営の仕方が安曇野地域にもあるといいですね。提案したらいかがでしょうか。

・① 市場調査

たくさんの人に聞けなかったけど、そのぶん最後までしっかり答えてくれる人ばかりだったので、それも大事な、ありがたいな、と。量から質へ。

② 安曇野紹介イベント

けっこう良かったのが、ビデオによる田淵行男記念館の紹介。みのもんたのやつです。かなり一方通行＆完結的な放映をされたはずのマスメディアの素材も、ローカルツール・橋渡しツールに生まれ変わってました。ツール探しにはアンテナを張らなければと実感。

③ バスの中での自己紹介（協働体験のきっかけとして）

一人一人の発言が長い自己紹介は、いつもはいたって退屈なのですが今回ばかりはあまりに个性的で、しかし誠実で、とにかく楽しく時間が過ぎていきました。はっきりいって、そんなの初めての経験でした。

#### ④ けやきコミ・センとの交流

けやきコミ・センの皆さんは、都会の中にありながら"地域づくり"を掲げる気持ちをもって、つまりここが自分たちのコミュニティだという意識を明確にもって活動されている姿が印象的でした。そしてセンター開設までの経緯や実際の立地を見聞きするなかで緑をもとめ、体温を感じるレベルの人との交流をもとめておられることもよくわかりました。

都農交流とはいいますが、志向する軸は都も農も共通して"コミュニティ"であり、その意味では「都農」の区分けが価値観の主たる軸とはなり得ないという、ここ80年来の日本近代の歩みの大きな転換点を見た思いでした。地域をいかに魅力あるものにするか、互いに何を学びあうか。

人類みな渡来人ではないですが、人類みな地域人の時代ですかね。

#### ・けやきコミュニティ・センター

代表 寺島 芙美子 様

皆 様

19日には安曇野からの総勢33名を快く受け入れていただき大変有難うございました。

お伺いして、まず吹き抜けの建物に感動しました。「コミ・センを私たちでつくろう」と建物の設計から携わった事。建物内のゆとりある空間、暖かくなると中庭で開放的なイベントも開催できる。また、人と人の出会いを大切に、60人のメンバーがともに協力し合い、企画・管理・運営している事をお聞きして、私たちのところは・・・と考えさせられました。

実際公民館は至る所にあるが、地域の人達との繋がりや出会いを大切に活動しているのはあまり聞いたことがありません。古民家など安曇野らしく改造して人と人とがコミュニケーションとれる場をつくりたいものです。

さて、MEN'S 2 コンサートが10月8日に音楽文化ホールで行うことに決まりました。八戒さん会長のもと、人と人の結びつきを大テーマに、聴衆と MEN'S 2 が同じ空間の中で一体がもてるコンサートとなるよう、これから活動していきます。

これからも、安曇野とのホットラインをお願いします。本当に有難うございました。

安曇野からのメッセージ

- ・林檎サンふじの試食をした武蔵野市民が、「なぜ、林檎がこんなに美味しいのか」と、実際に作った生産者に聞いていたが、「これが普通の林檎です」と答えるばかりだった。実際に作った人がそこにいるだけで、食べる側は食への安心と信頼を得るようです。

- ・2月19日安曇野からこんにちわ（安曇野アピール行動）にってきました（三郷14名 豊科5名 穂高3名 明科1名 堀金1名 松本7名 松本大学生1名）。現地で1名合計33名 女性6名男性27名でした。松本大学を8時15分に一路東京に向けて出発 峯岸氏の名司会挨拶にはじまって、自己紹介とスピーチそれぞれ豊かな経験をもった個性的なスピーチで大爆笑、互いにうちとけあったところで11時30分目的地に到着。けやきコミ・センの関係者から大歓迎を受けました。安曇野の安全安心の農作物や酒、ジュース、チーズ、薫製等の展示完了。いよいよイベントがはじまり70名の人で狭いホールは超満員、松村さんのりんご畑のテーマ他も大拍手、MEN'S 2 の歌も大好評でおおいに盛り上がり最後に早春賦の全員合唱の時には安曇野への思いはひとつになって、これからも互いに交流することを全員で確認しあってイベントはおわりました。展示品も完売してなごりおしみながら握手を交わし帰路につきました。帰りのバスでは全員から感想をいってもらい今日の企画は住民レベルの自発的な交流で松本大学に感謝する。行く前は不安と戸惑いがあったがそれはふっとび参加してよかったとの思いでいっぱい。あり

がとう。武蔵野市民を安曇野へ迎えようとの思いがひとつになり疲れをかんじなく、なにか展望のもてる元気がでる1日でした最後に当日は武蔵野市民31名からアンケートがとれました。

安曇野農産物の展示以外に安曇野道祖神研究家石田益雄先生の道祖神写真選集（安曇野の祈りと祭り）と写真家の平林良治先生の安曇野風景写真が展示されご兩人から説明がありました。碌山美術館と田淵行男記念館両館の役員をされている古幡開太郎氏から両館のビデオ案内がありました。黒沢自由塾が栽培し収穫した蕎麦を使って韓国料理研究家（やんちゃ坊オーナーシェフ）の張琴順さんがつくった韓国料理ムックが試食され、はじめて食べたと大好評でした。また「リンゴが何故こんなに美味しいのか」との質問に上條裕康氏は「これがリンゴなんです」と答えても、「なんで」と首をひねっていました。合鴨自然農法のビデオ紹介が西条正氏と藤沢雄一郎氏からありました。アンケートは1月24日の安曇野からこんにちは（第1次安曇野アピール行動）の時とその時に、けやきコミ・センに預けてきたのも含めて合計150人程度あったとの事です。

#### <けやきコミ・センの皆様から>

- ・けやきコミ・セン代表寺島美美子様からのメッセージ

19日は楽しいひと時をありがとうございました。けやきのメンバーも感動していました。

コンサートの歌を聴いていると、信州の人のしたたかさを強く感じました。母なる大地から吹き出る汗のようながんばり、悲壮感漂う曲から、明日に向かっての希望を感じたり、兎に角すばらしかったです。あんな素敵な音楽を聴きながら、お酒を酌み交わし、人生を語れたら最高！！そして、素敵な音楽が美味しいお酒や人間を育てているんだな！と思いました。

けやきは今年度の締めくくりの時期を迎えて忙しくなります。（1年中忙しいのですが）5月に住民総会を開催し同時に新年度が始まります。3月の運営委員会でバス研の提案をします。時期については後日連絡させていただきます。

- ・交流会は大成功！！でした。ということを前提にですが・・・・

1. 今後はけやきも含めて企画を一緒に考えたほうがいい。
2. 利き酒や試食はコンサートと一緒にしないほうが良いかも？（時間を決めて、コンサートタイムと利き酒、試食タイムを分ける）
3. あれだけ大掛かりなイベントはけやきのようなせまいところではもったいない。
4. 盛りだくさんの内容をわずかな時間で、成し遂げた達成感を感じた。
5. 安曇野の風を運んできて、爽やかな気持ちを置いて、あっという間に帰ってしまった。

安曇野の印象は、けやきのみんなに「1度是非尋ねてみたい！！」の想いになったようです。先日の運営委員会で、バス研が決まりました。もちろん、行く先は「安曇野」です。これから詳しい企画を練ります。多分、6月の初め、日帰りになりそうです。

- ・安曇野は私の大好きな田舎です。田舎と言うとちょっと不満がでそうですが、皆様にお会い出来てうれしく思います。今は田舎を捨て都会へ出る若者が多く、生産基盤の衰退が大きな課題です。太陽の光で光合成して生命を養う自然の力を創造的に活用した農業が今60億の生命を支えています。自然と人間の協働の田園地帯は子育てに不可欠のフィールドです。安曇野の自然と端正込めた田畑の美しさは心のオアシスと感じます。もっと沢山の交流が生れる事を期待します。全く期待しなかった楽しいひと時を過ごしました。今回のような形式のイベントだとは思ってもおりませんでしたので。安曇野に対して私が持っているイメージをアンケートでお知らせ致して居りましたので、そのことについてのディスカッション等が目的の交流だと思って居りました。食品の販売などは予想もして居りませんでしたので、行った時には売り切れでし

た。でもお酒はいただきました。コンサートも楽しかったし、残っていた蕎麦料理「ムック」もおいしかったです。

- ・ 物品販売が目的ではなかったようですが、買えた人、買えなかった人がでたみたいです。安曇野側でしっかり決めておかれたほうがよかったのではないのでしょうか。
- ・ 美術館や記念館の紹介ビデオはよかったです。コンサートはどちらも楽しくきかせていただきました。物産品で試食させて頂いた「メミルムック」は美味しかったし、最後に張様が残ったものを、よかったらどうぞと言ってくださいましたので頂戴いたしました。次の日（2月20日（日））はけやきコミ・センのガーディナースの方々の作業日でしたので、皆で食べさせていただきました。レシピもコピーして希望者にお分けいたしました。張様にお礼を申し上げたいと思いましたが、住所がわかりませんでした。よろしくお伝え下さいませ。  
P. C. アンテナショップ「麦わら帽子」にそば粉を買いに行きましたがありませんでしたので、他の産地のものを購入して試作しましたがあまり上手にできませんでした。
- ・ 物品展示の所で少しお話はできましたが、交流(話し合い)の時間がもう少しあった方がよかったと思いました。いらっしゃった方々同士が交流されている雰囲気も感じました。
- ・ 大変楽しませていただきました。ホールとその外側と両方とも楽しみたいと思いましたが、時間がなくホールしか見られませんでした。休み時間をもうけて、外側もゆっくり見学しお話を伺いたかったです。
- ・ 利き酒担当のAさんが、とてもいい調子で、利き酒をこえて飲み酒になっていました。私は3時過ぎで引き上げましたが、あの後はどうなったのか、バスの中が心配です。  
安曇野はとてもいい名前です、グリーンツーリズムで都市部との交流をされるとよいと思います。相互に交流するのがよいので、都市の方への滞在拠点をどうつくればよいかも考えなくてはなりませんね。
- ・ 安曇野に住んで自分の土地を愛する方達の姿をみて感動しました。おいしい土地のジュースやチーズなどを味わい幸せでした。安曇野へまた行きたくなりました。
- ・ 年度末の忙しい時期にということもあり協力しにくい面が多かった。コミ・センで出来ること、出来ないことをよく話し合って双方が理解してから開催した方がよいと思った。
- ・ 安曇野はぜひ行って見たいと思います。当日は窓口業務だったので、すこしずつでしたけど見に行ったり、試食したりで忙しかったです。ただ、農作物には非常に興味が有り、先日、柴野さんに頼んで送って頂き、少しずつですがつながりを持ちたいと思っています。無農薬の野菜を味わいながら、おいしくいただいております。又、皆で注文したいです。自然がいっぱいの所へ行ってリフレッシュしたいです。
- ・ すみません、ちょっと寄らせてもらっただけですが、・・・たくさんの方が来てらして少々ビックリしました。そして物産もたくさん、とても楽しそうでした。
- ・ ビデオやコンサート、お話等で安曇野紹介は十分されたと思いますが、ホールの中に入って

しまった為、物産展示はあまり見る事が出来なく残念でした。けやきコミ・センとの交流については、けやき側からの説明はほとんどなく、交流というにはちょっと物足りない感じでした。

これらの点はあるものの、全体としては中々楽しい一日でした。特にコンサートは楽しく、安曇野で聞いてみたいと思いました。

- ・安曇のことが良くわかって良かったです。若い人が頑張っている様子に感動！只、残念だったのは、打ち合わせの時にけやきの紹介をする様に頼まれていましたが、飛ばされてしまいました。寺島代表が色々考えていたと思うので、・・・けやきの事を知って欲しかったなと思いました。

## 〔5〕安曇野観光の今後の展望と課題

### （1）都農文化交流について

住民の自主運営のけやきコミュニティ・センターとの安曇野紹介の文化交流は意義深いものであった。

今後、安曇野の各地域の皆さんに、このレベルの都農の交流を増やしていただき、都農住民の要望を汲み取りながら、両者の共生をはかる道をさがして欲しい。

### （2）都会地に「安曇野物産直売店」の設置を

生産者側が直接販売にかかわることは、食への安心と信頼が得られ、消費者のニーズに応えることに通ずる。安曇野物産を直売する「安曇野物産店」を都会の各地に設けることができれば、その意義とその効果は大きいと思う。物々交換の時代は物の価値を直接、売り手と買い手が確かめるといふ人間的行為が必ず伴うものであった。すなわち、物を通じて仕事そのものの価値が常に問われていた。しかし、貨幣経済の発達とともに生産者の顔すらも想像しえない時代をむかえた。その結果、物を通じて仕事の意義や価値を感じ取ることが困難になってしまった。自らの仕事によって自己の社会的存在を実感できるべきであるという根本的問題を問い続けるためにも、直接生産者による直接販売の試みを地域同士の文化的交流をベースに定着できないものか。その具体化を探る必要を感じた。

武蔵野市のいくつかのコミュニティ・センターでは地域貨幣の試みを模索しているところがあるが、興味ある試みである。都農交流と地域通貨を連立することも将来的には現実的課題になるかもしれない。

### （3）都農交流と都農共生

それぞれの地域の人々が交流のホスピタリティをもつには、その地域の人々が活き活きと元気な地域づくりをしていることが前提となる。いい地域づくりをするためには地域内での協働が必要になるが、それは人々の生計を維持する経済的基盤や展望の上に永続するものである。地域の先人達は困難・苦難・貧困を乗り越えながら歴史を作ってきた。その知恵の再生を視野にいった地域文化の創造のもとでの経済的展望を求める協働の実現が肝要となる。安曇野と都市住民との交流・共生を考えると、農業と観光が経済的基盤となる確たる展望を開けるかどうかは重要課題である。今回の都市住民への安曇野観光市場アンケート調査によれば、都市住民は「心身の癒し」を求めていると読める。都市住民の求める健康づくりニーズと安曇野の自然や営みへの文化的関心を軸に、安曇野側が都農交流を展開することは、両者の本当に求めるものや具体的ニーズを探る上で有効と思われる。

#### (4) 古民家をリフォームして都農交流の場に

都会人は田舎とのいい交流を望んでいる。既存の公民館スタイルでなく、都市住民とも交流可能なコミュニティ・センターをつくる必要を感じた。安曇野には、古民家がある。この古民家を改装し、けやきコミュニティ・センターのように地域内外の人々の文化交流ができる小ホールやギャラリーなどを付属施設にもつ文化の香りのするものとしたい。ハイセンスの設計デザイナーに安曇野の古民家を現代的に蘇えらせるリフォームしてもらいたい。ここの運営は地域の文化センター的役割ができるように、住民の創造性を発揮できる自主運営にするとよい。

#### (5) 汗と食と温泉

多くの都会人は「心身の癒し」を、軽く汗を流し、素朴で新鮮な食に舌づつみを打ち、温泉にゆっくり浸かるという形で求めていると、アンケート調査から読み取れる。軽作業・軽運動、地元の食材による季節の料理、温泉保養をベースとして、都会人向け観光をすすめたらどうか。これに加えて、写真・写生・音楽・軽スポーツ・交流など人間とし生きる喜びを見出せるものを提供できる環境づくりをするのはどうであろうか。長期滞在型の観光が展望されてくる。

成人病などの治療や健康維持のための生活メニューや食材の提供などの事業開発も視野にいれるべきである。団塊の世代が、定年退職をむかえる日が近づいている。誰においても、定年退職後の健康維持は最大の関心事である。そのニーズに応えるプロジェクトを医学関係者や大学の研究者の協働をともなって展開することは、緊急の課題ではないだろうか。

#### (6) 行政サイドからの支援で安価な民泊施設を

都会人が、安価で長期滞在型の観光ができるような道を開く条件作りが必要である。安価な民泊の提供ができる行政サイドからの支援ができれば、都会からの経済的な還流が期待できる。今回の調査による都会人の求める農業体験要求をもとに、滞在型グリーンツーリズムへの展開という展望も大きく開けるであろう。

安曇野の青少年が地元の産業として農業・観光に将来展望を抱いて生きて行ける地にしたいものである。

#### (7) 健康づくりウォーキングコース

安曇野市民の観光客への「もてなしの心」すなわちホスピタリティの養成は重要である。その基礎づくりは、郷土を愛する風土の育成にあると思う。自身への、家族への、地域への愛がなければ、もっと大きなものへの愛へと進まない。ましては、ホスピタリティを身につけることなどできない。そこで、郷土を愛する風土の育成の具体化が重要となる。

例えば、道祖神巡り健康づくりウォーキングコースづくりは、どうであろうか。最近の大学では地域の健康づくりのためのウォーキング研究が進められている。大学の支援も得て、市民上げての道祖神巡り健康づくりウォーキングを進めて欲しい。これは、人々の交流を生むであろうし、郷土の歴史と触れ合う機会を提供することにもなろう。さらには、このコースを花街道（アスファルトでなく、土の道）として、市民の協働で作り上げる楽しさを加えたり、四季の道祖神祭を催し、写真・写生・音楽・短歌・俳句などの創作発表の場として広く人々の参加を求めることもいいだろう。小中高校では、郷土の道祖神研究など行なわれているところもある。道祖神巡りウォーキング・マップを彼らに作ってもらうのもいいことだと思う。近頃、通学時に子ども達が被害者になる犯罪の多発が報道されるが、通学時に市民のウォーキングが実施されれば、いい副次的効果をもたらすであろう。

さらに、トレッキングコース、サイクリングコースづくりをすすめれば、都会人への観光資源提供にもなろう。西国遍路は四国ブランドであるが、道祖神巡り、美術館巡り、拾ヶ堰めぐ

り、山葵田巡り、安曇野百番札所巡り、アルプス展望里山コースなどは安曇野ブランドとなるのではないか。これに、(6)の安価な民泊・温泉がセットされれば、都会人の「心身の癒し」には格好のもとなろう。安曇野市民と観光客が語らいをもちながら歩くのもいいものではないだろうか。すべての安曇野市民は、すべて名ガイド。これぞ、ホスピタリティである。

#### (8) ゴミ処理場設置を安曇野ブランドに

武蔵野市のゴミ処理施設であるクリーンセンターが市役所に隣接して設置されたことは示唆的である。ゴミ問題は安曇野市にとって、重要課題である。辺地へのゴミ処理場設置が話題になるが、発想を変えて、武蔵野市のように市役所隣接設置を試みたらどうかと提言する。監視の目は行き届き、難問への対処を全市民的に考えられる利点がある。この解決法は、安曇野ブランドとなるであろう。

#### (9) 無公害エネルギー施設の設置を安曇野ブランドに

ゴミ問題に劣らず、重要問題はエネルギー問題である。石油エネルギーや原子力エネルギー依存は、公害問題につながってゆく。太陽光、風力などによるエネルギー取得への道を開くべきである。ユニークな菜の花エネルギーでの電車運転などもふくめ、安曇野ブランドとしてゆきたいものである。

石油エネルギーや原子力エネルギーの依存は、我々に豊かさを提供したかにみえたが、大いなる矛盾に人類は遭遇している。これらのエネルギー依存が、戦争をもたらし、全地球的な環境破壊問題を引き起こしている。安曇野が、そこからの脱却の先駆者となって欲しいものである。

#### (10) ひきこもりやニートのための農場

豊かな自然のもとでの子育てを求める声は多い。山村留学などの試みが行なわれているが、財政難を理由に廃止される自治体もでてきている。ひきこもりやニートが社会問題化している。日本全体の都会化現象が地域の崩壊や家庭の崩壊を生み、社会性を喪失した子ども達を生み出している。労働力の損失という立場からも重大問題といえよう。人間関係にひいては人間は第3次産業のサービス業に適するかもしれないが、それに適合しない多くの人には仕事が少ない。農業や製造職人のような作る喜びの伴う仕事の提供が必要である。安価な農作物や製造物を輸入に頼る低コスト万能主義は、やがては深刻な食害、農地の疲弊、人心の不安を引き起こすことになるであろう。安曇野という自然環境の中での青少年の更生のための農場施設や技能取得施設の建設はできないものであろうか。この先駆的役割を安曇野市がおこなえばこれも安曇野ブランドとなりうるものと思う。

#### (11) 郷土を愛し、郷土に誇りを持つ青少年の育成

安曇野の文化の継承と発展のために、郷土の歴史や文化を学ぶ場の提供を学校教育や生涯学習教育にしっかり位置づけることを提起する。安曇野の歴史の中に井口喜源治の研成義塾があるが、郷土の偉人に学ぶことは、郷土への愛と誇りにつながるであろう。現在、有志による郷土の偉人の顕彰会や学習会が行われている。多田加助、松沢求作、荻原碌山、清沢冽、上原良司、植原悦二郎、田淵行男などには、学ぶべきものは多い。さらに、安曇野は外地から土着した人々との融合文化としての歴史を多分にもっている。このことを学ぶことは、最近住み着いた新住民との融和につながると思う。時代の先駆的役割を担ってきた先人達の歴史を学ぶ者は、彼らと同じように、広く世界に目を開くことになろう。郷土の研究者をはじめとして、安曇野を愛する研究者達による住民大学の設立を願う。また、小・中・高校生や青年達に易しく学びや



すい読本、「安曇野の人物誌」のようなものを作成して、学校教育や生涯学習教育で活用する道を開いてほしい。これによって、安曇野の未来を担う若者達が世界に目を開き、安曇野を深く愛することになることに期待をよせる。

旧豊科町は姉妹関係を結んできたオーストリアのクラムザッハへの中学生の訪問使節を送った。このように郷土を学ぶ青少年に海外研修の場を与えてほしい。安曇野青少年海外研修基金財団のようなものを広く市民に呼びかけてつくり、ヨーロッパなどの海外の農村文化やゴミ問題やエネルギー問題などを学ぶ機会を与えてやってほしい。なんといっても、郷土を愛し、郷土に誇りを持つ青少年の育成がなければ、安曇野の明るい未来はないことを自覚しなければならない。

#### 〔6〕安曇野観光に対する市場アンケート調査等の研究の助成について

安曇野観光に対する市場アンケート調査の実施については、文部科学省平成17年度科学研究費の助成を受けて行った。(基盤研究C「安曇野における滞在型グリーンツーリズムと地域活性化」研究代表者：松本大学松商短期大学部住吉広行)